

第 61 回全国社会人サッカー選手権大会 参加報告書

佐々木就将

1. 事前研修会

まず、競技会規定や新競技規則についての説明を受けました。次に、全国大会で起きたやすい事象として、「AT の確認と表示が違う・試合時間を早く終えてしまう」、「ADV 後に警告を示す場面で、当該選手を見失ってしまう」、「懲戒罰の確認不足（当該選手を間違う・2 枚目の警告でレッドカードが示されない）」、「ブッキングを同時にしている（交替や懲戒罰があった時）」、「頭部接触」、「公式記録の確認不足」が挙げられ、これらを防ぐ手立てについて確認を行いました。

2025 大会テーマ

- 大会を成功させること
- サッカーの「4 局面」と「球際」を理解したレフェリング
 - ・サッカーの 4 局面を理解し、素早い攻守の切り替えに対応できる
 - ・争点に適切なポジションで対応、球際をよく見極め、ゲームコントロールを行う
 - ・試合運営、選手、ベンチ管理を審判チームで協力して行う

2. 担当試合

1回戦 FC 刈谷 vs SRC 広島

10/11 13:30ko 八戸市東運動公園陸上競技場

主審：佐々木就将 副審 1：山田一騎 副審 2：有川輝優 第 4 の審判員：遠藤尊流

アセッサー：牛尾眞一郎 氏

2回戦 ヴェロスクロノス都農 vs ベルガロッソいわみ

10/12 11:00ko 五戸市ひばり野公園陸上競技場

主審：田原慎乃介 副審 1：稲田智成 副審 2：山田朝陽 第 4 の審判員：佐々木就将

アセッサー：山崎和彦 氏

3. 所感

JFL プール候補として、この大会に参加させていただきました。大会の成功と、与えていただいたチャンスを掴むために、「自身にできることをひたむきにやり切ること」を目標に大会に臨みました。

試合の振り返りでは、「判定が一貫しており、判断がはやいこと」、「走り寄りによる対立の予防」、「ファーストファウルを逃さず丁寧に対応したこと」、「タイムマネジメントやスローインの再開位置を先に示すなど、常にアラートな状態であったこと」、「運動量が最後まで落ちなかつたこと」、「動き出しやスプリント、PA 内への走り込み」を評価していただきました。継続してチャレンジしてきたことを全国大会の舞台で表現することができて、ポジティブなフィードバックいただけたことに手ごたえを感じています。

大会を終えて、今後のレフェリー人生で大切にしていきたいことを、整理することができました。それは、「最悪のケースを想定して、常に危機感を失わないこと」、「自分が感じたことを素直に表現すること」です。テクニックやスキルを学ぶ機会は多々ありますが、最後はテクニックやスキルではないと感じています。これまで上手くいかなかった試合は、どこか「上手くやろう」という気持ちがありました。「悪い」、「ずるい」、「危ない」ものに対して、素直に対応することで、分かりやすく周囲に伝わる、共感の得られるレフェリングにつながると考えています。

基礎基本を大切に、最悪のケースを常に想定しながら、感じたことを素直に表現することで、確固たる自身のレフェリングとして、納得感のあるゲームコントロールにつなげていきたいです。自身にできることをひたむきにやり続けることで、試合に関わる人たちの心を動かすことができる審判員を目指して、引き続き取り組んでいきます。

大会に送り出していただいた千葉県協会、関東協会の皆さん、ご指導いただいた日本協会の皆さん、大会期間中多大なサポートをいただいた青森県協会の皆さん、全国から集まった審判員の皆さん、本当にありがとうございました。



集合写真



1回戦のコイントスの様子